



1990年ヴェネチア国際映画祭審査員特別賞

OCIC賞 ■ 映画批評家賞 ■ 映画と子供賞 ■ CIAK人気賞など8賞受賞

1991年バヤドリッド映画祭銀賞 ■ 主演女優賞

トロント映画祭国際映画批評家賞

ベルリン国際映画祭フォーラム部門最高人気賞



エンジェル アット・マイ テーブル

“あわてないでいい、天使が不意におまえのテーブルに来たとしても……”
真珠のような柔らかな輝き、天使がそこにいる。
ひとりの女性をかぎりない愛情で描いた感動作！



ジェーン・カンピオン監督作品

◆ 原作ジャネット・フレーム ◆ 脚本ラウラ・ジョーンズ ◆ 撮影スチュアート・ドライバラ ◆ 美術グラント・メジャー ◆ 音楽ドン・マックグレシアン(サントラ盤/ピクチャーレコード) ◆ 製作ブリジット・アイキン ◆ 協同製作ジョン・メイナード ◆ 出演ケリー・フォックス、アレクシ/アキオーグ、カレン・ファーガソン、アイリス・チューン、K・J・ウィルソン、マーティン・サンダーソン、ウィリアム・プラント、コリン・マッコル ◆ 1990年ニュージールランド映画製作HIBISCUS FILMS LTD.

フランス映画社配給
ハウ・シリーズ作品

AN ANGEL
AT MY TABLE



エンジェル・アット・マイ・テーブル

ジェーン・カンピオン監督作品 AN ANGEL AT MY TABLE バウ・シリーズ作品・フランス映画社配給

●「あわてないでいい、天使が不意におまえのテーブルにきたとしても……」。

美しさに満ちたリルケの詩の一節からもインスパイアされたという、この「エンジェル・アット・マイ・テーブル」は、1990年ヴェネチア映画祭にニュージールランドから出品された。そして2週間半をこえる上映時間ながら人々の心を魅了し、映画祭で空前の長く暖かいオーウェーションに包まれて、審査員特別賞をはじめ、8つの賞を受賞した。

これは、ニュージールランド、ウエリントン生まれの女性監督ジェーン・カンピオンの長編第2作。学生時代に作った短編がカンヌ映画祭でグランプリをとったり、長編第1作『スウィーティー』の鋭い映像表現でその才能はすでに十分に認められていたが、この映画で一気に世界にその名を知らしめた。

●幼い頃、友達に「モジャ」と呼ばれていた赤毛のジャネットは、人一倍好奇心旺盛な反面とてもシャイで、成長するにつれ、周囲の人々や環境になじめず孤独感を深めていく。その感性が、あまりに繊細で鋭敏であったがために、他人の目には精神の異常としか映らなかつたジャネットの魂を、カンピオンは限りない愛情と親しみを込めて描き出す。

少女から思春期を経て、大人としての自立まで。そこに綴られるエピソードは、誰もがかつて感じ、体験し、わが事として思い出すささいな出来事。ちよつとした驚きや、感動。いさかみや怒り。感情をうまく伝えられないがゆえの焦燥感。それらが、さりげない自然さで、しかしどれもが真珠のような柔らかな輝きを放ちながら胸にとび込んでくる。

女性としてのカンピオンの、豊かで繊細な感性が可能にした、女性の内面をウイウィットに切り取る見事な表現力は、まさに、「見せる」だけでなく、「感じさせる」映像といえるかもしれない。カンピオンが、ジャネット・フレイムの原作を読んだ時「美しく、悲しくて、温かみにあふれた小説」だと感じたように、この映画もまた、原作の心そのままの愛すべき作品となった。

●その、450ページにも及ぶ膨大な原作を3部作の形を保ちながら、鮮やかに簡潔にシナリオ化したのは、オーストラリアの女性脚本家ラウラ・ジョーンズ。プロデューサーのブリジエット・アイキンはハイビスカス・フィルムズの代表。撮影のスチュアート・ドライバラは短編をへて、これが長編第2作。音楽のドン・マックグレレシヤンは、映画音楽を手がけたのはこれが初めてだが、スコットランド民謡〈ダンカン・グレイ〉をテーマとして印象的に使ったほか、シューベルトの〈音楽に寄す〉そしてオリジナル・スコアやマオリ・ポリネシア民謡を効果的に使い、バラエティに富んだ世界を作り上げた。



●原作は、ニュージールランドを代表する女流作家ジャネット・フレイムが、1982年から85年にかけて出版した自伝的3部作。社会が用意した道を拒否する子供たちや、人間を正常と狂気に分ける傲慢さに対する恐怖を、叙情詩の言葉で描いた小説で知られる作家だ。その彼女が、作家として独り立ちするまでの半生をつづつたのがこの原作で、カンピオンが子供の頃には「気のふれた小説家」という評判で通っていたその生い立ちが、ありのままに誠実に語られている。

【スタッフ】
監督ジェーン・カンピオン、原作ジャネット・フレイム、脚本ラウラ・ジョーンズ、撮影スチュアート・ドライバラ、美術グランド・メジャー、音楽ドン・マックグレレシヤン（サントラ盤/ビクター・レコード）製作ブリジエット・アイキン、協同製作ジョン・メイナード

【キャスト】
ジャネット・フレイム=ケリー・フォックス、子供時代のジャネット=アレクシア・キオグ、ティーンエイジのジャネット=カレン・ファーガソン、母=アイリス・チューン、父=K.J.ウィルソン、フランク・サージソン=マーティン・サンダーソン、ベルナード=ウィリアム・プラント、フォレスト教授=コリン・マッコール

1990年ニュージールランド映画■製作 HIBISCUS FILMS LTD./ カラー/ビスタ/2時間38分 ■日本語字幕/戸田奈津子、宣伝デザイン/小笠原正勝■©1990、HIBISCUS FILMS LTD.



〈ジャネット・フレイムと3人のジャネット〉

●子供時代の、少女時代の、大人のジャネットの、赤すぎる縮れ毛、持てあますほど大きな体、おおらかすぎる心は私たちをとらえて放さない。—— 仏（ヘル・モンド）紙

●この「天使」は純粋な大空のようだ。ニュージールランドの監督ジェーン・カンピオンは、小説家で詩人のジャネット・フレイムの、感動的でドラマティックな半生を実に輝かしく映画化した。—— 米（ザ・ハリウッド・リポーター）誌

●深く感動的で悲劇的な物語なのに、我々の予想を裏切って、トーンは常に明るい。ジェーン・カンピオンは、卓越した映画作家のみが持つ適確さで、何でもない場面でも観客を愉快地笑わせてくれる。—— 豪（メルボルン・サンデー・ヘラルド）紙

数々の受賞に輝く「ピアノ・レッスン」のジェーン・カンピオン監督作品特別上映

3月26日(土) ▶ 4月15日(金)
(3週間限定)

シヤンテシネ2
日比谷・東宝映画街 03(3591)1511

●上映時間（短編からの上映となります）

連日	12:00	3:15	6:30
----	-------	------	------

特別鑑賞券1400円
好評発売中 (当日一般1,800円(他) 大高生1,500円)

●同時上映 ●ジェーン・カンピオン監督作品
'86年カンヌ国際映画祭短編部門グランプリ
「ピール」PEEL (35分、9分)